

九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.155

2010(平成22)年12月8日(水)発行



<1941(昭和16)年12月8日未明、日本海軍がハワイ・真珠湾を奇襲攻撃>
 今年は特に話題にならなくなって、風化がすすんでいるのでしょうか。
 <1980(昭和55)年12月8日、ジョン・レノン凶弾に倒れる。享年40歳>
 ニューヨークの自宅アパート「ダコタハウス」の玄関前で、熱狂的ファンの青年に射殺された。小野洋子と結婚、名曲『イマジン』でも有名。



関東大震災の混乱に乗じて 起きた「朝鮮人虐殺事件」 (▼東京書籍「図説日本史」より)



○自警団による朝鮮人虐殺 朝鮮人約6000人のほかに、中国人約200人も殺害された。

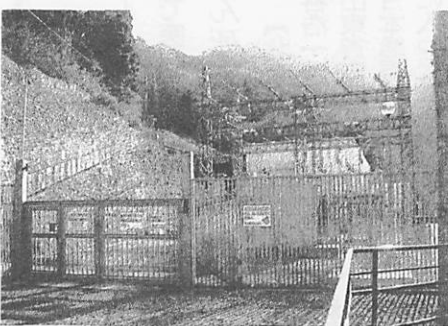
「朝鮮人暴動」のデマが広まり、各地につくられた武装自警団によって朝鮮人多数が殺された。

大正7年に東京織物工場が雲雀ヶ原に建設された。この七人の朝鮮娘が工女としてやって来た。朝鮮人部落と俗称される一画が戦後まで存在した。大正9年に桜井に無線塔が建設された。大正12年の関東大震災で原町無線塔が被災。緊急援助船の食料や衣服、薬品を配布する。被災者に救済の功績は大きい。無線塔の暴動からモデックを内務省と一緒になって全国に宣伝した。デマを内務省と一緒になって全国に宣伝した。

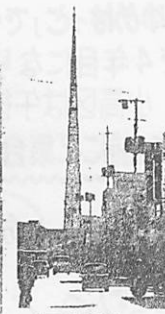
日韓併合百年と原町の歴史(後編) 二上英朗

今年は日韓併合百年ですが、韓国(朝鮮の方々と)と原町の関わりを、二上英朗さん(作家・郷土史家・福島市在住・本会会員)に寄稿していただきました。152号(前編)の後編です。

朝鮮の人々が建設に関わったり、働いていた原町区の建造物



▲石神水力発電所
▼原町紡織工場



▲無線塔

したため、いわれのない朝鮮人虐殺を招いて日本史に汚点を残した。うしろめたい日常的な差別に、怯えて報復を懼れるあまりに、自分の恐怖の影に怯えて恐慌をきたした。小心なものほど、残酷な凶暴さにみ込まれるのだ。(ヒステリックな虚報の電文を打電した将校は軍法会議で刑に服した)

戦時中の昭和19年に完成した石神水力発電所の建設は朝鮮人労働者が担当した。以前から公文書を、村山首相の誕生で、原町警察署から出てきた。終戦時に、相馬地方に在住する第三国人(中国人・韓国人)の動静調査の報告書であるが、個人別の状況と評価が記されている。工事で働いていた労働者が百五十人ほどいたことが明記されていた。

相馬の新沼浦の製塩工場で働いていた朝鮮人のうち子供を含めて15人が、終戦末期の米軍の空襲で犠牲になった。相馬臨海工業団地の一面に寺があるが、無縁の墓石塔が建立されてお、韓国から遺族の慰霊団がここを訪ねてくる。韓国の慰霊団がここを訪ねてくる。

(裏面につづく)

「南相馬のクリスマス百年」写真展

○12月21日(火)～26日(日)

宣教師・教会・鈴木安蔵・町長佐藤政蔵など

○南相馬図書館(原ノ町駅前)

終戦で多くの朝鮮人が解放された祖国に帰った。北朝鮮の宣伝に乗せられて地上の楽土と信じて、日本人妻も渡った。原町国民学校（現原一小）の六年生だった金且得さんは、父に連れられて韓国に去ったが、在学中親切にされた担任三島定信先生を懐かしんで昭和60年に原町を訪問した。彼らは駅前に住んでいた。「原町ではいじめられたことがない」という。私の姉の同級生も在日二世だが、彼もまた「いじめられたことはない」と言う。今では立派な医師になっている。彼の父親はパチンコ店経営者のロータリアンだが、釜山の飛行場で昼寝していた時に日本軍のトラックが来て強制的に積み込まれ、九州の炭鉱で働かせられそうになって逃げ出した経験の持ち主。日本全国では悲惨な事件もあったが、むしろ、石神村では男手の無くなった村の若い娘が結婚できなくてかわいそうだと、積極的に石神の労働者に「村の娘と結婚してくれ」と永住を勧め、三人が落ち着いたという。そのうちの生き残りの一人、慶尚南道出身の旧姓南さんから工事の様子や、石神永住の経緯を聞いた。総じて原町の朝鮮人は自由労働者であった。

飯館村に来訪していたボランティアの丁貞淑さんと、二人の労働研修生の青年と交流する機会があり、聞けば祖父母からは「日本は冷酷な国。なぜ行くのか」と訪日を止められたが、親切にされて「家族には日本にも親切な人はいると説得する」と言って招待してくれた。それでかつて伊藤博文が千円札だった頃に、家族で仁川と鎮海に二週間ホームステイした。朝鮮総督府の石造建築物がまだソウルの王宮の政庁と正門の真ん中に聳えていた。日本の友人に絵葉書を出すため、鮮人の肖像が印刷された航空便用の切手を買ったら、昔の朝鮮人のマズン・グンと読めた。私は思わず「昔、在日二世の原高生の皮肉を思い出した。」

（終了）

日中戦争従軍後、贖罪から中国にとどまり医師となった“山崎宏さん”のこと

2010.12.4
従軍後、中国で医師
山崎宏さん死去



【北京＝古谷浩一】中国山東省青島の日本総領事館に入った連絡

によると、日中戦争に従軍した後、中国に残留して同省済南市で医師を続けてきた山崎宏（やまさき・ひろし）さんが1日、同市内の自宅で死去した。102歳だった。故人の遺志で、遺体は地元の医療機関に献体されたという。岡山県出身。1937年に軍属として中国に渡り、軍馬の獣医師として従軍した。終戦を迎えた際、「（日本軍の中国人に対する行為への）償い」として、残って役に立ちたい」と残留を決心。52年に医師になり、地元の診療所で治療にあたってきた。山東大学で日本語を教えるなど日中友好にも尽くし、昨年に100歳の総理大臣敬老表彰、今年8月には外務大臣表彰を受けていた。

二〇一〇年十二月四日付
『朝日新聞』

獣医師でしたが敗戦後、中国で医師の資格を取り診療所を開き、乳幼児から老人までの地域医療に貢献。「永遠に日本は戦争をしないこと」と平和主義を力説し、「遺体は献体する」と話していたそうです。マスコミで言いたい放題の評論家や、無責任この上ない政治家達は「山崎さん」のことをどう思うのでしょうか。

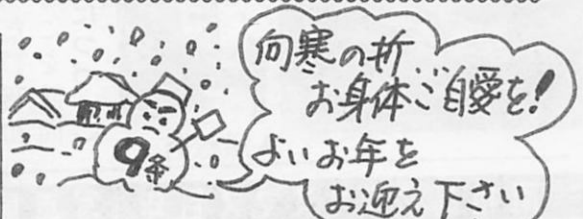
新成人に「憲法小冊子」を一緒に配布しませんか！

◆来年1月9日(日)南相馬市成人式(原町区は「ゆめはっ」と午後一時半開式)に、「憲法小冊子」を新成人に配布します。今年で4年目になりますが、ご一緒に配布しませんか。(同日鹿島区は10時開式、小高区は午後2時開式です)

◆一緒に配布できる方は、12時30分、「ゆめはっ」前にご集合ください。

「はらまち九条の会」事務局連絡先

- 会長：平田慶肇 TEL0244-24-1211
- 事務局長：山崎健一 〒975-0014南相馬市原町区西町3-53-2 TEL22-8631 ○石田賢二 TEL22-4037
- 会計：井上由美 TEL22-7511・FAX26-0892
- 早坂吉彦 TEL22-0326 ○番場恵子 TEL22-0715



<名歌>「少女と申す者たれも戦争ぎらいに候」与謝野晶子（1878年12月7日誕生日）